



すでに前号で紹介したように、成寿山善光寺には黒田老師の「大教師補任・赤紫恩衣被着特許」「曹洞宗特別奨励賞受賞」が、また、倫子令夫人には京都清水寺の「太祖瑩山禅師さま報恩顕彰碑建立」と大きな喜びのできごとがありました。

これらの記念すべき事業を一つに集めた盛大な祝賀会が、去る平成十四年二月二十八日、横浜プリンスホテルで行われました。



黒田老師はエネルギーの塊です。  
あらゆるものに  
ファイトを燃やしています。

大本山總持寺貫首・板橋興宗大禪師猊下

● 温かい激励の言葉の中で

当日、定刻の午後六時には会場の横浜プリンスホテル桜の間は宗門の関係者や縁者など駆けつけた約五百六十名の参加者で埋まりました。祝賀会はまず、発起人の代表でもある全国獄山会会長・横山敏明老師の開会のご挨拶から始まりました。「黒田老師は新寺建立以来、持ち前の明るさと初発心時の気持ちに絶やすことなく今日まで続け、ようやく近年になって大きく花を咲かせました。それが、曹洞宗でも数少ない最高位を表す赤紫恩衣の着用を許され、若年にして大教師の位を授けられた理由です」。

続いて、曹洞宗総合センター所長・奈良康明氏（元駒沢大学学長）は経過報告として、黒田老師の奨励賞受賞と大教師の位を与えられた理由に「国内外に仏教を興隆する留学僧育英会による功績」「宗派を超えた提携の先駆けとなった令夫人の顕彰碑建立による功績」「季刊誌



新寺建立以来、持ち前の明るさと  
初発心時の気持ち絶やすことなく  
今日まで続けられました。  
全国獄山会会長・横山敏明老師

『成寿』『道元の二十一世紀』の刊行などによる  
教学振興助成の功績」の三点を挙げました。

宗門からは、大本山總持寺貫首・板橋興宗大  
禪師猊下より「黒田老師はエネルギーの塊です。  
あらゆるものにファイトを燃やす。外からのお  
布施を布施行として至るところに施しておられ  
ます。スリランカの大僧正から『キリスト教に  
はローマ法王庁が、イスラム教にもメッカがあ  
るように、世界中の仏教徒が集まる場所が日本  
にできないだろうか』と話がありました。そ  
の役を担うのは黒田老師が適任ではないかと思  
いました」との祝辞が励まし言葉とともに贈  
られました。

さらに、総和会会長・佐伯逸雄氏から「どん  
なことにも「人」が大切。黒田老師はその  
「人」に注目して、三十年余りをかけて育成に  
力を注いでおられます。このことが宗門にとつ  
ていちばん貢献しています。慈悲とか、人徳は  
普通目に見えないものですが、黒田老師にはそ



黒田老師には目に見えないはずの徳が見えます。それは実践の中で培われているからです。

総和会会長・佐伯逸雄氏

れが見えます。それは実践の中で培われた尊いものであるからです」。

總持寺監院・伊東盛熙氏からは「三十余年の間、終始一貫して、国際人材の養成、不況拡大に専念されたことは宗門の誇りであり、あらためて敬意を表します。このような不透明な時代だからこそ、老師のような実践力が必要で、それが道標となり、宗門活性化の原動力になると確信しています」。祝辞には併せて、老師を支える倫子令夫人の陰の力と篤い信仰心にも触れられていました。

留学僧の交流だけではなく黒田老師が広く国際親善に力を注いでいるスリランカ政府からは、スリランカ全権委任日本大使・カルナティカラ・アムヌガマ閣下がご出席になりました。「まず、スリランカの代表としてご挨拶します。お二人は日本だけではなくスリランカにも大きな貢献をされています。私にとっても大切な特別な方です」と紹介しながら、スリランカ

老師の実践力は宗門の道標となり、  
宗門活性化の原動力に  
なると確信しています。

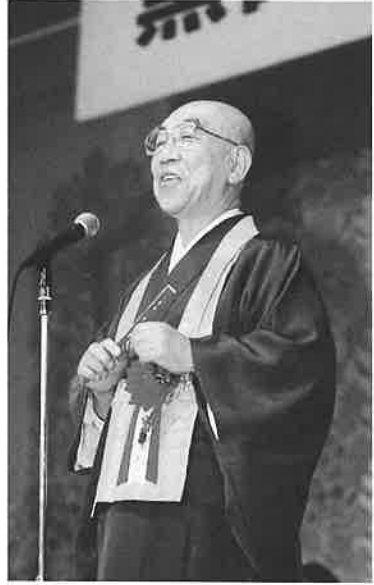
總持寺監院・伊東盛熙氏



で一番大切な人への贈り物として使われる「ワタパタ（授戒に使う大扇）」を黒田老師と令夫人に贈りました。

宮林浄土宗光明寺法主は黒田老師との出会いから始まり、宗門の最高位に登られ仏祖に立ち返って宗派を超えることを説いた名僧増上寺の福田行誠上人の姿に老師夫妻を重ね「希望を見失った時代に黒田老師は火の玉のようになって、寺庭のあり方を示しておられます。仏道に生きる出家者のあり方として、学ぶところが多い」と大きな賛辞を贈りました。

そして、皆様からいただいたご祝辞にお答えするように、檀信徒代表総代熊谷豊太郎氏が「私たち檀信徒は住職を中心として心の通いあう固い絆で結ばれています」と結び、「皆様のお祝辞通りに歩んでいきたいと思えます」と黒田老師が謝辞を述べ、曹洞宗宗義会議員の洞外文隆氏が「育英会で育った国際的に通じる人材が世界中で活躍することを祈ります」と挨拶。



老師の姿は仏祖に返って

宗派を超えることを説いた

増上寺の福田行誠上人に重なります。

宮林浄土宗光明寺法主

第一部の幕を閉じました。

●和やかな語らいとともに

第二部は壇上に上った十七人の来賓によるおめでたい鏡開きからスタートしました。鏡開きが続いて、曹洞宗参議東京吉祥寺住職岩本昭典老師のご発声で乾杯。横浜善光寺留学僧育英会理事でもある駒澤女子大学学長・東隆眞氏、友人代表として大雄山最乗寺山主石附周行老師など、仏教界の重鎮に混じって、デビ・スカルノ夫人のご挨拶などもあり会場は盛り上がりしました。

善光寺婦人会会長伊東初枝様より倫子夫人に花束贈呈。同じく、錦戸節子様より黒田老師に千羽鶴が贈呈されました。

津軽三味線の演奏や獅子舞のアトラクションが続いて、成寿山善光寺開基家代表として東郷敏氏の謝辞、神奈川祖門会会長岡田哲道老師の

喜びの気持ちは老師ご夫妻よりも  
私たち檀信徒の方が  
むしろ大きいかも知れません。

東郷敏様



閉会のご挨拶で盛大な祝賀会は幕を閉じました。

黒田老師ご夫妻に寄せられた賛辞や祝賀の声は会が終わってもしばし会場に余韻を残していました。さまざまな方からいただいたお言葉の一つ一つは、善光寺の檀信徒にとっても大きな誇りであり励みでもあります。これからもこうした喜びの時に出席できるように、老師とともに一日一日を大切にしていきたいと思えます。



大教師補任・赤紫恩衣被着特許  
曹洞宗特別奨励賞受賞

太祖磐山禪師さま報恩顕彰碑建立

成寿山善光寺

住職 黒田武志老師  
寺族 倫子令夫人

## 祝賀会

### 第一部

#### ●開会の挨拶

全国嶽山会会長

横山敏明老師

#### ●経過報告

曹洞宗総合研究センター所長

元駒澤大学学長

横浜善光寺留学僧育英会理事

奈良康明先生

#### ●祝辞

曹洞宗管長大本山總持寺貫首

板橋興宗大禪師猊下

総和会会長

佐伯逸雄老師

大本山總持寺監院

伊東盛熙老師

スリランカ全権委任日本大使

カルナティカラ アムヌガマ閣下

通訳 バーナガラ ウパティツサ大僧正

浄土宗大本山光明寺法主

宮林昭彦猊下

成寿山善光寺檀家総代

熊谷豊太郎様

#### ●謝辞

成寿山善光寺住職

横浜善光寺留学僧育英会理事長

黒田武志老師

#### ●第一部閉会の挨拶

曹洞宗宗議会議員

洞外文隆老師



第二部

●鏡開き

元大本山總持寺監院 山形 善宝寺  
 前大本山總持寺監院 大阪 臨南寺  
 大本山總持寺祖院西堂 静岡 宝持寺  
 大本山總持寺祖院監院 愛知 宝泉寺  
 元曹洞宗宗務総長 愛知 万松寺  
 前曹洞宗宗務総長 新潟 養広寺  
 覚王山日泰寺代表役員  
 衆議院議員 東北福祉大学学長  
 衆議院議員  
 財団法人仏教伝道協会会長  
 立正佼成会理事長  
 財団法人国際仏教交流協会理事長  
 全日本仏教婦人連盟理事長  
 株式会社板橋社長  
 東亜建設工業株式会社社長  
 株式会社鳳友産業グループ会長  
 日広建設株式会社社長

●乾杯

曹洞宗参議 東京 吉祥寺  
 横浜善光寺留学僧育英会顧問

●挨拶

ラトナ サリ デヴィ スカルノ様

駒澤女子大学学長

横浜善光寺留学僧育英会理事

東隆眞先生

友人代表 大雄山最乗寺山主

石附周行老師

●花束贈呈

善光寺婦人会会長

伊藤初枝様より黒田倫子夫人へ  
 錦戸節子様より黒田武志老師へ

●津軽三味線

(三味線) 白濱政則 白濱克子 吉田幸江  
 富沢八重子 飯沢優子(和太鼓) 橘六央 橘美鈴  
 (尺八) 鈴木淡宝  
 獅子舞

●謝辞

成寿山善光寺開基家代表

東郷敏様

●閉会の挨拶

神奈川県祖門会会長

岡田哲道老師

岩本昭典老師

発起人の皆様

全国嶽山会会長

曹洞宗宗議会議員

曹洞宗宗議会議員

神奈川県東部総和会会長

神奈川県東部有道会会長

神奈川県東部嶽山会会長

神奈川県祖門会会長

神奈川県第二宗務所所長

神奈川県第二宗務所第五教区教区長

駒澤大学総長

鶴見大学学長

駒澤女子大学学長

善光寺護持会会長

善光寺事務局長

善光寺総代代表

総代一同

横山敏明老師

洞外文隆老師

渡邊孝彦老師

渡辺道春老師

赤間喜芳老師

鈴木義昭老師

岡田哲道老師

市川智彬老師

篁 素明老師

松田文雄先生

高崎直道先生

東 隆眞先生

越石周平先生

富永 豊重様

熊谷豊太郎様



壇上で石附周行老師から祝辞を受ける黒田老師と倫子夫人



熊谷豊太郎様より檀家総代としての祝辞（写真上段右）。鏡開きの樽に向かう齊藤信儀老師、桑原眉尊老師、沼田智秀先生（左から、上段左）。閉会の辞は岡田哲道老師（中段右）。祝賀会の中は終始和やかに。加藤大真様、江川辰三老師（左から、中段右）。控室で久し振りの再会に話が咲く、岩本昭典老師と黒田老師（左から、左上から3枚目）。会場にひとときわ華やかさを添えた獅子舞（左下）

スリランカ全権委任日本大使

## カルナティカラ アムヌガマ閣下のご祝辞

<和訳>

本日、成寿山善光寺住職黒田武志老師の榮譽を称えた祝賀の席に招かれましたことは、大変名誉なことであり心からお礼を申し上げます。

横浜善光寺の住職として、同時に横浜善光寺留学僧育英会理事長として、老師の日本と海外への貢献と、功績は誠に目覚しいものがあります。スリランカの人々は、老師の親切と雅量に多大の恩恵を受けております。この良き日にあたりまして、東京の駒澤大学より仏教布教の功績に対して奨励賞を受賞されましたことに、わが国の国民と政府に代わり、心よりお祝い申し上げます。更に老師が、曹洞宗大教師に補任されましたことも合わせて、お慶び致す次第であります。

今年は、日本とスリランカが外交関係を樹立して 50 周年を迎える年であります。皆様ご承知のように、両国の文化的、精神的な絆は、両国の多面的な関係の中でも、最良の部分を占めています。両国共に人口の大部分が、それぞれ仏教徒であることが、共通面の多い両国の文化の形成に、大きな役割を果たしたと思います。また、両国の仏教会の組織の頻繁な交流が、文化、宗教面での結びつきの発展に貢献し、更に重要なことには、両国の人々の相互理解と友情の発展にも寄与



したことであります。

スリランカは仏教の国であることから、「布施」という概念は生活の一部として受け入れられてきました。この中で最も崇高な行為とされているのは角膜の贈呈であります。スリランカはこれまで3000個の目の角膜を日本の必要とする人々に寄付してきました。この記念すべき50周年を意義ある年にすべく、スリランカでは50個の角膜を日本に贈呈するための準備を行っています。私たちは、スリランカと日本の交流の歴史の中におけるこの重要なイベントは、角膜の寄贈により50人の日本人がスリランカの目で見える機会を与えられた時こそ、完全なものになると信じます。

文化的な祝典では、横浜市長と、みなとみらいライオンズクラブの支援の下に横浜で、イベント「スリランカ文化の夕べ」を計画しています。今年は横浜善光寺と有志の皆さんが、ぜひ記念式典に参加されることを歓迎致します。

最後に、聖なる三宝の恵みが老師にもたらされ、その健康と今後の発展に更なるご加護がありますように。

ご静聴ありがとうございました。